



特許願 ()

特許庁長官 昭和 50 年 8 月 20 日

1. 発明の名称 眼底診断装置

2. 発明者 佐所 東京都中野区野方 6 丁目 49 番 2 号

氏名 佐所 隆一

3. 特許出願人 佐所 (昭和) 東京都板橋区深田町 7 番 1 号

氏名 (名称) 東京光学機械株式会社

代表者 佐所 隆一

4. 代理人 佐所 東京都板橋区深田町 7 番 1 号 電話 (03) 311-1111

氏名 (昭和) 井野上 中村 穂

(ほか 1 名)

50 101029

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 52-25494

② 公開日 昭 52 (1977) 2.25

③ 特願昭 50-101029

④ 出願日 昭 50 (1975) 8.20

審査請求 有 (全 4 頁)

庁内整理番号

6236 23

⑤ 日本分類

94 B1

⑥ Int. Cl²

A61B 3/10

明 細 書

1. 発明の名称 眼底診断装置

2. 特許請求の範囲

対物レンズと、前記対物レンズの透過光の光路上に配設され、対物レンズの透過光を二分割する光分割器とを備え、前記対物レンズに対し、前記光分割器の共役位置に被検眼の瞳孔を置いて眼底診断を行うようになつた眼底診断装置において、分割された光光束のそれぞれ一方の結像位置に、分割方向に相つて撮像を光行進方向の時刻を可能にしたことを特徴とする眼底診断装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は眼底診断装置に関する。さらに詳細には、本発明は、対物レンズの透過光の光路上に光分割器を配置し、対物レンズ透過光を二分割して撮像させることにより、立体観察または複数人による観察を可能にした眼底診断装置に関する。

たとえば瞳孔内障など眼底部の疾患の検査には、眼底診断装置が用いられる。特に瞳孔内の瞳孔は、眼底の乳頭部といわれる部分の形状の変化に映われることが知られており、この形状の状態を立体観察により診断するための立体眼底診断装置がすでに提案されている。たとえば、特開昭 48-98005 号には、対物レンズの光路上に光束分割器を配置して対物レンズの透過光を左右二分割し、分割された光光束を相異なる位置に撮像を行なうようになつた眼底診断装置が示されている。この装置においては、被検眼の瞳孔を対物レンズに対し光束分割器の共役位置に置いて観察を行なうことにより、光分割器により分割された光光束は、被検眼の瞳孔の左右の半分ずつとせる

